

いまだひろまちいせき

今田広町遺跡

(藤沢市No.106遺跡)

調査期間 20090416～継続中

所在地 藤沢市今田字丸山地内

時代 縄文
古墳～古代
中・近世

作成日:20090710

概要

今田広町遺跡の発掘調査は、総合治水対策特定河川事業「二級河川 境川」(今田遊水地建設)に伴う事前調査で、藤沢土木事務所の委託を受けた当財団が、平成21年4月より実施しているものです。

本遺跡は、小田急線湘南台駅の東方約1kmに位置しており、遺跡の立地面は標高20m程を測る境川右岸の沖積(ちゅうせき)低地にあたっています。平成9年に横浜市営地下鉄新線建設工事に伴う事前調査(藤沢市No.106遺跡)が実施されていますが、今回の発掘調査はその隣接地を含む6地点(A区・B区・C1～C3区・D区)の調査が予定されており、現在、3地点(A区・B区・C1区)の調査を併行して実施しております。

A区では、水田跡や畠跡といった耕作関連の遺構を中心に、掘立柱建物址・井戸址・溝状遺構・方形区画(竪穴状遺構)・焼土址・土坑・ピットなどの遺構が発見されています。これらの遺構からは、中・近世の陶磁器やかかわらけ、金属製品の煙管(きせる)・銭貨(せんか)、石製品では砥石(といし)・石臼(いしうす)などが出土しています。その他、少量の土師器(はじき)や縄文土器もみつかっています。

B区では、調査区全面に展開する水田跡と、それを区画する畦(あぜ)や溝などの遺構が発見されています。B区で発



▲A区 中・近世面



▲A区 南東部中・近世遺構

見された水田跡は、床土(とこつち)の上面に宝永火山灰(ほうえいかざんばい 1707年噴火)の堆積が確認されており、近世後半期頃のものとして推測されます。この他、近世の水田の床土と考えられる土層を掘り下げた面で、流路と考えられる溝状の掘り込みが確認されました。この溝の時期は古代～中・近世と考えられますが、流路内に埋積する土層中からは数点の縄文土器がみついています。

C1区では、調査区内を蛇行しながら南東流する複数条の溝状遺構や、杭列などが発見されています。溝状遺構は、B区で発見されたものと同様、古代～中・近世頃の流路と考えられます。



▲B区 近世水田跡(第1面)



▲B区 古代～中・近世面(第2面)